



奈良岡聰智 教授

京都大学大学院法学研究科教授。日本政治外交史専門。主に大正期を中心とする近代日本の政党政治、日英関係について研究。

欧州研究会議 (ERC) プロジェクト「日本帝国の崩壊と戦後東アジアにおける正当性獲得に向けた闘争」の招待講演

第一次世界大戦と日本

報告者：奈良岡聰智、博士 (法学)

京都大学大学院法学研究科 教授

日時：2015年11月27日 (金)、16時

場所：ケンブリッジ大学アジア・中東学部、第8教室

本報告は、第一次世界大戦期の日本の外交、世論および抑留者の問題 (在ドイツ日本人の抑留問題) について考察する。日本の政治外交を「情報戦」という視点から分析し、中国の英米側への働きかけ、英米メディアによる反日世論形成を背景に進展した一連の対外交渉についても明らかにする。また、大戦下、捕虜としてドイツに抑留した日本人の体験、その後のドイツとの関わり、および捕虜問題についても報告を行う。

